

# 杉戸町立杉戸第二小学校

## 低学年部会

主題名 みんなが楽しいかくれんぼ 4-(1)

資料名 「かくれんぼ」(彩の国の道徳「きょうもげんきに」)



授業風景



ワークショップ型グループ協議

## 授業者から

「私の授業の観てほしいポイント」の説明、授業についての感想等

### 「私の授業の観てほしいポイント」

- ①主人公の気持ちになって考えるために
- ②ねらいにせまるために
- ③自己を振り返り、みつめるために

※詳しくは、「私の授業の観てほしいポイント」をご覧ください。

- ・児童の実態から資料を分割し、掲示物等を活用し視覚で訴えられるようにした。
- ・次のかくれんぼではどうすればよいか、児童がくまくに教えてあげる展開にした。また、ペア学習を通して、自分の考えをもてるようにした。
- ・キーワードを与えて振り返りを行っている。

## 各グループからの発表

ワークショップ型分科会

- ・紙芝居や掲示物が素晴らしかった。くまとりすの大きさの違いもわかりやすかった。
- ・本時の話合いのテーマを示した方がよかったと思う。
- ・資料を分けて読み聞かせをしたことが、児童にとってわかりやすかった。
- ・葛藤場面でもっと揺さぶってもよかった。
- ・つぶやきから揺さぶるとよい。
- ・くまが迷っているときは、場面絵などに困った表情もあるとよい。
- ・くまだけでなく、他の動物の思いも考えさせると葛藤場面で多面的に考えることができよかったのではないかな。
- ・役割演技では、価値に気付かせ、生き方について考えていくために、くまがかくれた場所から出てくる場面を扱うとよい。
- ・ペア学習では、授業者も入り、言葉につまっている子に、声を掛けていたのがよかった。
- ・2年生からの手紙をもらい、児童はうれしかったと思う。
- ・きまりを守ることで自分も周りも気持ちがよいことを強調した方がよい。
- ・実生活と結び付け、「くまさんの気持ち、わかるよ」「約束を守ると気持ちがいいよ」と、くまに手紙を書く方法もよいのでは。
- ・振り返りではこれからの自分の生活についても書けるように練習していくとよいと思う。
- ・学級会で実践しているチーム力賞が児童に浸透していると思った。



## 指導講評

- ・指導案の板書計画を見てすごいなと思った。  
「彩の国の道徳」はプロが作ったものではない。絵もオリジナル、挿絵もオリジナル。授業者の作成した掲示物により、児童は想像力をはたらかせ、「かくれんぼ」の世界によく浸っていた。そして、児童の実態をふまえ資料を分割したことで、自然に話し合っていた。
- ・紙芝居をホワイトボードに貼っていたので、意見が詰まった時に活用するとよい。
- ・展開前半では、もっと揺さぶりがかった。約束はわかっている。でも、どうして守れないのか。と切り返してから、くまさんへの手紙を書いたりするとさらに深まったのではないか。
- ・終末の2年生からの手紙では、自分たちも約束が守れてよかった思える、児童にとって実感を伴ったまとめであった。約束は守るべき、守らなければいけないなど捉え方はあるが、低学年のうちには約束を守ると気持ちがいい、安全だからなど理由付けをして押さえるとよい。
- ・多面的・多角的思考を促す発問  
主人公がどんな気持ちだったかを共感的に捉えさせるだけでなく、主人公の行動について「なぜ？」と問いかけたり、自分だったらどうしたか？主人公をどう思うか？など多面的多角的に考えさせる。
- ・テーマに迫るためには、発達段階や実態に合わせて発問の仕方を変えることが大切である。

